



令和5年3月14日
四国運輸局

(資料同時提供)
四国交通記者クラブ
徳島県政記者クラブ

第16回 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰式の開催について
～四国地方では徳島県立近代美術館 ユニバーサルミュージアムの取組みが受賞～

令和5年3月16日(木)に第16回「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰」を実施し、バリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた取組みを表彰します。

国土交通省では、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、バリアフリー化に関する優れた取組みを広く普及・奨励することを目的として、「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」を平成19年度に創設しました。

今般、第16回となる受賞者を決定し、下記のとおり表彰式を開催します。

四国運輸局管内では、徳島県立近代美術館による「学芸員、障害当事者、サポーターが一体となってつくるユニバーサルミュージアムの取組み」が表彰されることとなりました。

1. 表彰式

(1) 記念講演会

日 時：令和5年3月16日(木) 15:00～

場 所：国土交通省10階共用会議室A(大ホール)

東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎3号館

内 容：・選考委員(別紙1)からの講評

・受賞団体から取組内容のプレゼンテーション

(2) 表彰状授与式

日 時：令和5年3月16日(木) 16:10～

場 所：国土交通省4階幹部コーナー会議室1

東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎3号館

内 容：大臣より表彰状の授与

2. 受賞者 2件(2団体)

※受賞内容の詳細は別紙2のとおりです。

※取材・傍聴ご希望の方は、令和5年3月15日(水)までに、所属、氏名、連絡先、取材・傍聴希望の旨を以下メールアドレスにご連絡ください。なお、一般の方は(1)のみ傍聴可となります。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図るため、入館時の手指消毒やマスクの着用などの感染症予防対策にご協力をお願いします。また、風邪や発熱のような症状がある場合は、ご自身の体調を優先し、参加をお控え下さいますようお願いいたします。

取材・傍聴の問い合わせ先

国土交通省総合政策局バリアフリー政策課

TEL 03-5253-8111（代表）内線 25505、25522（中島、三浦）

03-5253-8304（直通）

メール： hqt-sousei-barrierfree★gxb.mlit.go.jp

（「★」を「@」に置き換えてください）

徳島県立近代美術館の受賞内容に関する問い合わせ先

四国運輸局交通政策部バリアフリー推進課（担当：山岡・廣瀬）

TEL：087-802-6727

メール skt-syougyouka3012@ki.mlit.go.jp

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰 選考委員一覧

(敬称略・順不同)

秋山 哲男 [委員長] (中央大学研究開発機構教授)

高橋 儀平 (東洋大学名誉教授)

星加 良司 (東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究
センター准教授)

新田 保次 (大阪大学名誉教授)

河野 康子 (一般財団法人日本消費者協会理事)

市立伊丹病院

手話通訳や指差しカードの導入等による医療現場内外における聴覚障害者とのコミュニケーションの円滑化とバリアのないまちづくりへの貢献

●取組の概要

市立伊丹病院では、兵庫県内で初めて手話通訳士を院内に配置したほか、聴覚障害をお持ちの方との意思疎通を容易にする指差しカードを導入し、これが市内の各施設やバス事業者などの施策に取り入れられるなど、医療現場内外における聴覚障害者とのコミュニケーションの円滑化に寄与。また、約40年間活動を継続している病院内の手話サークル「たんぽぽ」による地域を巻き込んだ手話学習会や、手話通訳を介した講演会を開催するなど、地域におけるバリアのないまちづくりに寄与する取組みを実施。



外来診療での手話通訳対応の様子



院内手話サークル「たんぽぽ」勉強会
(元代表・江木氏)



聴覚障害者用 入院・外来診療説明用ツール



聴覚障害者等を対象とした医療講演会

●今後期待される取組

今後、新型コロナウイルスの感染が落ち着いてくると、手話通訳士の通訳活動の更なる需要増加が見込まれるため、手話通訳士を配置する他院との情報交換を行い相互にレベルアップを図ることにも期待。

徳島県立近代美術館

学芸員、障害当事者、サポーターが一体となってつくる ユニバーサルミュージアム

●取組の概要

徳島県立近代美術館では、障害の有無や年齢に関係なく、誰もが安心して自分らしく鑑賞を楽しむことができるユニバーサルミュージアムを目指し、視覚・聴覚障害をお持ちの方がナビゲーターを務める鑑賞会を開催するなど、インクルーシブな取組みを実施を実践。



言葉や点字が書かれた積み木を
3つ繋げて会話する「ミツミキ」



障害当事者がアートイベントサポーター
として進行役を務めるプログラム



筆談によるアート鑑賞



車いすユーザーの目線に配慮した
「体にやさしいユニバーサル展示：好きな目線で」展

●今後期待される取組

今後、全国各地の美術館で共生社会や心のバリアフリーを見据えたユニバーサルミュージアムの展開が続くと思われるが、市民の参加と経験の共有・発信などにより、こうした魅力的な取組みのさらなる発展・継続にも期待。